



碧南ロータリークラブ週報

第2160回例会 平成15年1月15日(水) 晴.最高5℃.最低-2℃

- 会長 長田 昌昇 ● 幹事 平岩統一郎 ● SAA 亀山 裕一
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 碧南市源氏神明町90番地
TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 加藤知彦・竹下 豊・竹内光博・新美惣英



- 齊唱 ロータリーソング「我ら生業」
- 本日のメニュー 和風弁当 大正館
- 本日のお客様 地区クラブ奉仕委員長
名古屋東南RC 片山 主水君
米山奨学生 王 培紅様

会長挨拶

回教徒の女性も時代と共に近代化が進み社会への進出も目覚しいものがあるようです。しかし中近東の回教徒では、未だに女性には選挙権が無い国が多くあります。又女性の自動車の運転を禁じたり、一人での外出や旅行を禁じたり、家族と外出する時でも全身ベールを被る事を義務付けています。かつて、タリバン時代のアフガニスタンでは、女性は働く事は勿論のこと学習することも禁じられ、外出する時はブルカと呼ばれるベールで全身を隠していました。

しかし、1979年に宗教革命が起こったあのホメイン氏のイラクでバイクのメーカーが市場開拓の為、女性に無料でモーターバイクの運転を教え既に25,000人の女性がバイクの運転免許を取り、若い女性の憧れになっているそうです。イランではホメイニ氏による宗教革命後、非イスラム的なものは厳しく排除され、女性は頭からつま先まで隠すアバヤと呼ばれる黒いベールの着用を強要されていました。又自動車の運転は、明確に法律で禁止されていたわけでは無いが非イスラム的な行動とされていました。しかし、今回イラン最大のバイク製造会社は、36,000,000人の女性をターゲットにバイクの売り込みを計画しているとの事です。今回この計画に年配者・聖職者は、非イスラム的で退廃的な行為であると反対しているそうです。

宗教革命後女性は、ジーンズ等の身体の線が見える服装は禁止されているはずです。いったいどんな服装で彼女達はバイクに乗るでしょうか、興味があります。尚、念のため、ブッシュ大統領によればイランは悪の枢軸の一つです。

幹事報告

他クラブ例会変更（時間など詳細は各クラブにお問い合わせ下さい）

第7回理事会報告

- ・12月度の収支は、原案通り承認されました。



王 培紅様 誕生日

- ・小澤会員より退会届が出ておりましたが承認されました。
- ・IM委員会の解散の件、次年度のIMは地区の方針によりまして、開催しないということでございますので、委員会の解散を承認されました。
- ・市民駅伝大会及び健康ジョギング大会の負担金の件、負担金3万円の支出を承認されました。
- ・新春防火たこあげ大会の協賛について、協賛金3万円の支出を承認されました。
- ・例会変更につきまして3月5日水曜日を夜間例会に充てまして、創立記念日でありますので、場所を衣浦グランドホテルに移しまして、夜間例会を行う予定になっております。これが承認されました。
- ・1月25日にIMが安城の碧海信用金庫本店で行われます。事務局の方へ出欠の返事をお願いしたいと思います。なお、バスは13時に碧南市役所を出発し、帰りは碧南市役所玄関までお送りいたします。

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 78名 (内出席免除者 15名) 出席者64名	
出席対象者 53／63名	出席率 84.13%
欠席者14名(病欠者0名)	前々回修正出席率 96.88%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

国際ロータリー第2760地区のクラブ奉仕委員長 片山 主水君

杉浦 功哲君 卓話の講師第2760地区クラブ奉仕委員長片山主水君をご紹介いたします。

犬塚 敦統君 12月29、30日父の通夜葬儀には、多くの方に年末のお忙しい中、お参りいただきありがとうございました。

長田 昌昇君 1月10日碧南警察署感謝状贈呈式、1月12日碧南市消防出初式に出席し、消防団では多数の会員がご活躍されていました。

森田 英治君 新美 孝君 杉浦 健次君 鈴木 並生君 鈴木 昭洋君 木村 徳雄君
1月10日碧南警察署長より感謝状をいただきました。

角谷 信二君 1月12日消防出初式にて市長より、功績章をいただきました。

服部 一彦君 嬉しい事がありました。皆様のおかげです。

早退 3件 合計 53,000円

卓 話

「ロータリー情報について」

国際ロータリー2760地区

クラブ奉仕委員長 片山 主水君

今日のテーマは「ロータリー情報」ということですが、ロータリーのその色々な書面を見ますと、行間にロータリーの目的に沿った奉仕の心をもった、そういう人間を作り上げる役目、それを教育という言葉で慎重に使っておるわけですが、教育する、同化する、あるいは教化する、という言葉が端々に出てくるのです。

ですから、「ロータリー情報」というのは、ずいぶんとへりくだって言っているわけですけれども、本当は宗教の言葉でいうと、折伏すると言うのでしょうか、洗脳すると言うのでしょうか、本当はそういうことがしたい委員会だということです。それぐらいの意気込みをもった「ロータリー情報委員会」なんですね。ですけれども、そこは、なに、ロータリーで教育される、ロータ



リーで研修をする、そんなバカなことがあるか、たかがロータリーじゃないか、というそういう反発がいくらでも出てくるのですね。ロータリーというのはもっとやわらかいものですよという思いが片一方にどうしてもあるもんですから、そこん所を慎重に言葉使いをして、「ロータリー情報」という言葉を使っているわけですね。ただ、他の委員会と比べて、名前の付け方が2種類あって、そのうちの1種類といいますのは、「ロータリー情報委員会」ですね、名詞に委員会がついているんですね。例えば、出席委員会ですと、「出席奨励委員会」出席を奨励するという動詞ですね、行動する委員会、動詞に委員会という名前がついている。そういう2つの委員会の名付け方があるわけですが、碎いて言うと、「ロータリーの情報に関する委員会」というよりしようがないわけなんですが、このロータリーの情報に関する委員会というのは、実際は何をやるかと、ロータリーの情報を集めて聞かれたらすぐ答えられるような委員会、もう少し積極的に、伝達する委員会、先ほど言いましたように、いやいやもっと研修する委員会だ、教化する委員会だ、教育する委員会だ、とこういうことまで入るわけですね。この教育すると言いますか、同化すると言いますか、研修すると言うこの役目というのは、非常に重要なことです。国家でも教育委員会、市でも教育委員会があるように、この委員会というのはずいぶんと重要な委員会です。

碧南クラブさんは歴代の幹事さんを委員長に選んでおられる、そういう背景があって、ロータリー情報委員会が構成されているわけであります。ロータリー情報といいますと、ロータリーの知識と理解を深める情報は、なんでも情報だとこういうことですから、これから私がお話することはどんなことでも、ロータリーの理解を深めることに関連することでございますので、私は的を絞らずに本当に放談をしてもロータリー情報に繋がるということです。

ガバナーの公式訪問は、毎年有る必要がないのじゃないか、例え3年に1度ぐらい有って初めて、ああ、ガバナーの公式訪問の年だということで、その年のガバナー公式訪問が重要になり、またこの記憶にも残るんじゃないかと。毎年毎年同じようにやっておったんじゃ、印象が薄れて、重要性がなくなるんじゃないかと、ということを考えておったわけですね。それで3年に1度ぐらいがいいんじゃないかと。3年に1度と言いますと、その当時、クラブが67ぐらいありました、今は69か70ありますかね。愛知長久手ロータリークラブというのが去年の末に出来ましたから、それでちょうど大台に乗るか乗らないかということですけれど、そうすると3分の1になりますから、1年に20幾つ回ればいいと、そういうふうにしたらどうかという検討しておった時に、今のハッと思いついたのは、何か来ておったよということですね。それでどちらの案がいいのだろうかと。どちらの案というのは、ニューリーダーシッププランでその協議会はガバナー補佐というのを、あるいはガバナー補佐という名前はどちらでもいいですよという当時はそういうことでした。それを、ガバナー補佐に協議会をやってもらって、ガバナーは公式訪問だけをやりなさいと、その時にクラブ協議会は切り離して別の機会にやりなさいと、それでガバナーのエネルギーをロータリーの奉仕に向けなさいとこういうことがありました。どちらがいいだろうか、で検討しましたところ、公式訪問は年に必ず1回はしなければならんということが分かったんです。

それで、ニューリーダーシッププランを進めようということになったわけですが、

それを今度ニューリーダーシッププランでそういうものを、採用してくださいとは言ってこないのですよ、採用することが奨励される、いつもRYの言い方はそういうことです。決議をしたと。それを尊重することが望まれるとかね、そんな回りくどいことを言ってくる。ですから、そのニューリーダーシッププランを見た時にも、我々はもうそんなものはいらんと、すぐにあったわけですけれども。まあそんなことで、それじゃあ、これしかないなあと、日本の他の地区はどうだろうと、ガバナーの犬飼さんが調べろとおっしゃるものですから、ずっと調べました。調べるというのは、ノミニー事務所へ問い合わせるんですね。

そうしたら、採用しますという所が一つもない。さて、どうするか、やろうか、どうしようか、

ということで、最終的にはこの地区で一番適当な方式にちょっと変えて採用しようと、採用するに一番難関は諮問委員会へ通すことなんですね。みんなパストガバナーは個別的にやってこられた人ばかりです。中でも今の森田さんですね、森田さんは一度やって失敗されたから、これがいいと思っていらっしゃるから、「やりなさい、やりなさい」とこう言う。それから、犬飼さんをガバナーに推薦した人が2人お見えになりまして、その方も、「いやあ、任せた以上はあなたの思う通りにやりなさい」とこういうことで、とりあえず3人の支持者ができた。あと、その人たちからガバナーを個別に説得していただいて、初めの雰囲気は過半数が反対だったのが、最終的にはやりなさいということになったわけですね。ですから、このニューリーダーシッププランは、本当にいいか悪いか将来になってみないと分かりませんが、当時としてはそんなことで諮問委員会の承諾を得て出来たということです。ただし、あまり反発が多いといけませんので、当年度はガバナー補佐という名前を使用しない、分区代理という名前はそのまま踏襲してガバナー補佐の実質上の権限と責務を義務を持ってもらってあたってもらう。それで第1年度でしたので、ガバナーと同じジャケットを着ていただくと。ご記憶かどうかわかりませんが、緑色のジャケットをガバナーとガバナー補佐ならぬ分区代理が全員着まして、いつも公式の時は着ました。地区幹事もそれにあずかってそんなことで発足をしたわけです。

経済人がガバナーになられると色々な構造改革やら財政改革やら勇気をもってやられる。それからお医者さんや他の職業の方がやられると、そういうことはちょっと置いておいて、もう少し文化的なことに力を入れられるというような感じがしますね、なるほどそう言っていただくと、そうかなあと、こんな感じがしておりますね。来年度IMを無くしようというような、これも大きな改革ですね、今までずっとやってこられた。これも来年度はやっぱり経済豊島さんだなあという感じがするわけです。

ガバナーが非常に愛好せられていた、星野富弘という学校の先生が書いた誌と絵の詩集「鈴の鳴る道」というこういう本ですが。各クラブに行ってはこの中から一つ読むというようなことをやっておられました。私も非常にいい詩だなあと思ったのが、4つばかりあるのですが、時間がありませんから、2つだけ読みましょうか。ちょっと聞いてくださいよ、短いです。

「麦の穂 隣も麦の穂 ぶつからず 離れすぎず 特に高いものもなく 特に低いものもなく似ているけれどみんな違う 麦の穂 太陽の弓矢」という詩なんですね。こういう絵が書いてありますね。注釈はちょうどロータリーアンみたいなだなあという感想がついております。

もう一つ「鏡に写る顔を見ながら思った、もう悪口を言うのはやめよう、私の口から出た言葉を一番近くで聞くのは私の耳だから」と言う詩です。

本当に雑な話で申し訳有りません。ありがとうございました。

次回例会案内／1月25日（土）
「インターフェース・ミーティング（IM）」
碧海信用金庫本店